

様式第5号

出張調査報告書

平成28年10月31日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 町民クラブ

代表者 堀越 利雄



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成28年10月12日から平成28年10月13日まで
2 視察地	徳島県 神山町
3 視察目的	神山プロジェクト ～創造的過疎から考える地方創生～
4 視察者氏名	堀 越 利 雄 鈴 木 勝 長谷川 真也
5 視察結果	行程・視察結果は別紙のとおり

平成28年度町民クラブ視察日程表

平成28年10月12日

松伏町 9時00分
↓
羽田空港 12時00分
↓
徳島空港 13時30分着
↓
徳島市内

平成28年10月13日

商工会館 13時00分 NPO法人グリーンバレーによる説明
↓ 14時00分 現地視察
徳島空港 20時00分着
↓
羽田空港 21時30分着

平成28年度松伏町「町民クラブ」視察報告書

日程 平成28年10月12日 徳島県徳島市内
平成28年10月13日 徳島県神山町

参加者 堀越 利雄・鈴木 勝・長谷川真也

視察目的 **人口減少を止めた神山町** **～創造的過疎から考える地方創生～**

私たちの訪問は、岡山県真庭市と山梨県の商工会の団体との合同説明であった。この見学には1人4000円の経費が掛かり1つのツアーとなっている。NHKで紹介されてからとにかく忙しいらしい。

徳島県神山町の人口は、1970年代は約1万3000人であったが、現在は約6000人となっている。

1970年の転出者は880人で転入者は475人、2010年までは転出者が転入者を上回っていたが、2011年には転入者が転出者を上回った。

上回った原因は「神山プロジェクト」による①サテライトオフィス（IT産業、映像、デザインなど場所を選ばない企業）の誘致である。2016年までに13社の企業が神山町に企業を設立した。もう1点が②ワークインレジデンス（町の将来にとって必要になる働き手や起業者の誘致。ピザ屋、靴屋、パン屋、惣菜店、ゲストハウスなど）の誘致、設立である。最後に③神山塾（厚生労働省の基金訓練・求職者支援訓練による後継人材の育成）である。

これらの事業を進めているのがNPO法人グリーンバレーである。

やったらええんや

グリーンバレーの事業は若者のアイデアを大切にする。町を面白い街にしようと会議を開くと必ず居るのが「アイデアキラー」である。誰が責任取る。過去にやったことがあるが成功しなかった。前例がない。このような意見が必ずでる。若者の芽がつぶされてしまう。グリーンバレーではできない理由ではなく、できる方法を模索する。図書館の設立が希望された、当然予算がないと行政の答えである。そこで考えられたのが「寄付のできる図書館」である。各家庭では本の収容に限界がある。それを町に寄付し、大切な本を一生保管してもらう方法である。寄付したものが図書館を利用することができる。

上記のような話を聞いた後、企業が設置されている現地を訪れた。

初めに訪れたのが映像会社である。この会社の本社は東京にある。入社後に本社に勤務するか、神山町に勤務するか自分で選ぶことができる。神山町に支店を置くことは、職員のストレスの軽減と、資料のバックアップ機能としての利点もある。東京直下型地震の対応でもある。

次に向かったのが商店街の空き店舗を復活させた例である。総菜屋や靴屋などが並ぶ、人口が増えることが若者の就労も増え、商店の必要性もでてくる例である。このような若者を育成するのが「神山塾」である。

土地の賃貸契約の形式について質問した。

投資額が1000万円を超えるものは土地も建物も販売の形をとるが、改築費が数百万円台では期限付き契約などの形をとる。空き家の貸し借りでは行政が進めてもなかなか進まないことがあるが、貸家を行った経験のある家主が、「若者が入ってきて町も明るくなった」などを良い話をする、次の貸し手も現れ始める。体験談が一番との事であった。

松伏町に参考になったこと

人口減少の町では「いかに人口を減らさないか」を主題として町おこしをしている。しかし、神山町の1つの考えは「残された人たちがいかに優雅に暮らすか」をめざす。そのことで企業が誘致され、結果として人口減少も抑えられる。人口減少を防ぐために素敵な街を作る。残された人たちのために素敵な街を作る。やることは同じであるが心の違いは大きい。